富山市学校施設長寿命化計画　概要版

1.背景・目的

○本市が保有している学校施設の多くは老朽化が進んでおり、多額の維持管理・修繕・更新費用が必要となる見込まれています。
○人口減少による税収の減少や少子高齢化による社会保障費の増加が懸念され、厳しい財政状況が想定されています。

◆本市の人口推計

	2020年		2045年	
年少人口	51.0千人	→	39.7千人	（減少）
生産年齢人口	242.4千人		197.1千人	（減少）
老年人口	122.1千人		125.1千人	（増加）
合計	415.5千人		361.9千人	（減少）

長期的な視点をもって学校施設の更新や計画的な改修、予防的な保全を行い、施設の長寿命化を図り、トータルコストの縮減と財政負担の平準化、安心・安全な教育環境を継続的に確保することを目的とします。

2.計画期間

本計画は、「富山市公共施設等総合管理計画」期間と整合性を図るとともに、建物の老朽化状況や児童生徒数、市の財政状況等の変化に対応するため、10年ごとに見直しを行います。

令和４年度（2022年度）～令和38年度（2056年度）

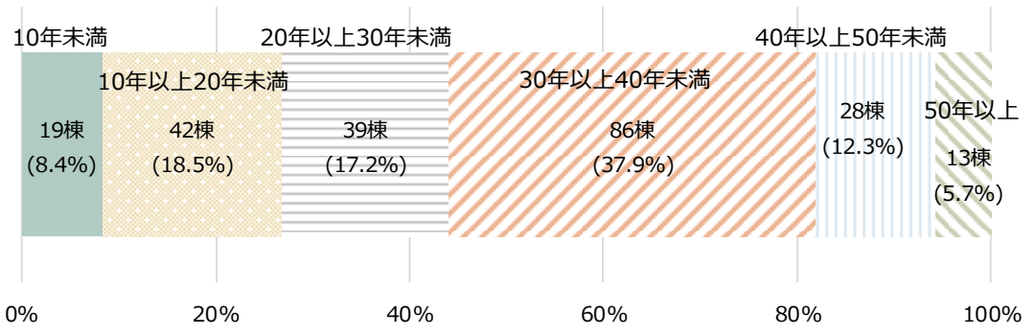
3.対象施設

建物規模を基準に本計画の対象となる施設を抽出しました。なお、今後改築や統廃合、閉校・閉園が決まっている学校施設は対象外としています。

◆対象施設の学校数・建物数・面積

	小学校	中学校	小学校 ･中学校 併設校	幼稚園 ･こども園	合計
学校数	57校	18校	3校	5園	83施設
建物数	150棟	63棟	9棟	5棟	227棟
面積	356,633㎡	148,877㎡	34,989㎡	5,377㎡	545,876㎡

◆対象建物の築年別保有状況



4.改修等の基本的な方針・長寿命化の方針

学校施設の整備にあたり、5つの改修等の基本的な方針と2つの長寿命化の方針を設定しました。

改修等の基本的な方針

①将来児童生徒数に対応した施設規模の検討
②改修等に係わるトータルコストの縮減と財政負担の平準化
③安心・安全な学校施設
④教育環境の質的改善
⑤余裕教室等の有効活用

長寿命化の方針

①予防改修による計画的な維持管理の実施
②長寿命化改修の実施

5.目標使用年数・改修周期

日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」を参考に長寿命化が可能な建物を80年、不可能な建物を60年と設定します。また、改修周期は、文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」より設定しました。

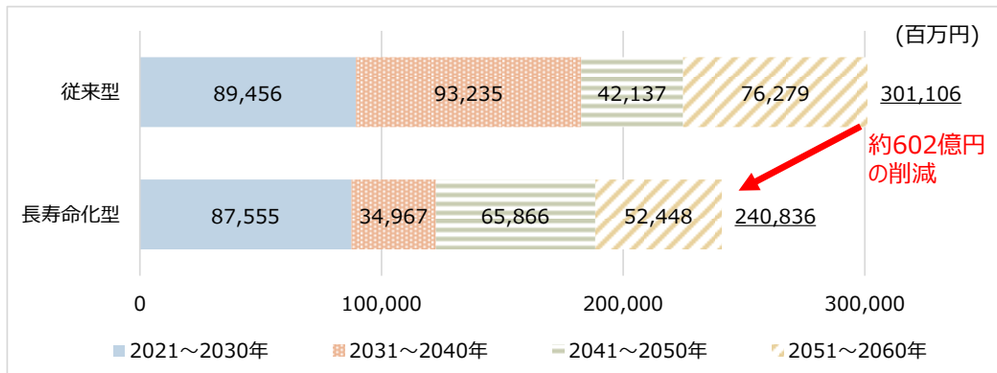
◆学校施設の改修周期

	予防改修	予防改修	長寿命化改修	予防改修	建替え
長寿命化可能	建築後20年	―	建築後40年	建築後60年	建築後80年
長寿命化不可		建築後40年	―	―	建築後60年

6.長寿命化の効果

本市が従来行ってきた改修方法（築25年目：大規模改造、築50年目：建替え）と長寿命化の改修周期とした場合の今後40年間の維持・更新コストを比較しました。従来通りの改修の場合、今後40年間で約3, 011億円に対して、長寿命化の場合、約2, 408億円であり、約602億円の削減が見込めます。

◆今後40年間のコスト試算結果



7.改修等の整備計画

改修等の整備計画を作成するにあたり、建物の劣化状況及び築後経過年数を基に優先的に改修等を実施する施設を整理し、今後10年以内に改修等を検討する建物を整理しました。

なお、改修等の具体的な実施時期については、令和3年度に策定予定としている「（仮称）富山市立小・中学校再編計画」の内容やその進捗、予算の平準化等を総合的に勘案し、検討・決定してきます。

（仮称)富山市立小･中学校再編計画の内容や進捗 予算の平準化 国庫補助の活用 学校単位での効率的な実施	考慮・反映 →	**改修等の整備計画**